

# 浮気サーチキット使用手順書

## ※本キットをご使用する前に

浮気の証拠として提出される資料には、「精液判定」の検査結果や「DNA鑑定」の検査結果があります。DNA JAPAN 株式会社では、数多くの浮気調査に関する「精液判定」や「DNA鑑定」を実施しております。今回、お客様が本キットにて検査をしようとしている検査対象物も浮気の証拠となる可能性がございます。浮気の証拠とするためには、当社のような第三者機関にて検査した結果が必要となります。そのため、以下の使用手順を守り、再検査ができる状態で検査されることを強く推奨いたします。

### 【推奨事項】

- ・本検査キットを使用する際には手袋を着用する
- ・検査対象物に多くの付着物が付いている場合は、全量を使用せず、半分のみ使用する
- ・検査をする前にスマートフォンなどで写真を撮影しておく
- ・付着物が少ない場合は、大事な証拠を無駄にしないため、当社にご相談ください。



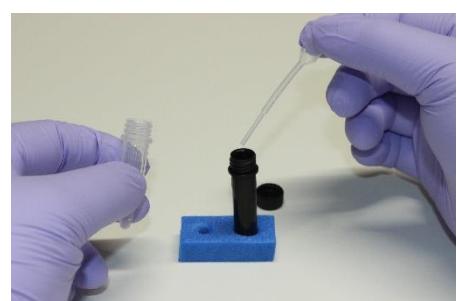
### 【キット内容物】

① ご案内	1 枚
② チューブ立て	1 個
③ 採取液	1 本
④ 試薬 A (黒いチューブ)	2 本 (※2 回分)
⑤ 試薬 B (色付キャップチューブ)	2 本 (※2 回分)
⑥ スワブ (2 本入)	2 セット (※2 回分)
⑦ スポイト	2 個 (※2 回分)

### 手順①：試薬を調整する

※調整した試薬は 24 時間以内にご使用ください。24 時間以上経過した試薬は使用できない可能性がありますので、検査をする直前に調整してください。

1. 手袋（本キットに含まれません）を着用します。
  2. 試薬 A の蓋を開け、チューブ立てに立てます。  
※試薬 A は粉末状ですので、飛散しないようにゆっくりフタを開けて下さい。
  3. 試薬 B（透明の液体）をスポットで全量とり、試薬 A のチューブに入れます。
  4. スポイトを使ってかき混ぜ、30 分間冷暗所で静置します。  
※スポットは手順④で使用しますので破棄しないでください。
- ※調整した試薬は琥珀色です。また、浮遊物・沈殿物が生じることがありますが検査には影響ありません。



### 手順②：検査対象物（下着、生理用品、衣類など）を用意・撮影する

- 素手で触ることは避け、手袋をした状態で、検査対象物を取扱いください。
- お手持ちのカメラ・スマートフォン等で検査対象物を使って、検査前の状態を撮影してください。「検査対象物全体」、「付着物付着部位のアップ」など、複数枚撮影することがポイントです。

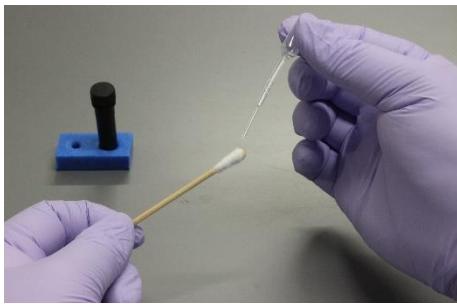


### 手順③：付着物を採取する

スワブで付着物をこすって採取します。付着物が乾燥して採取できない場合、付属の採取液を 2~3 滴スワブに滴下してから採取してください。

※付着物が多く存在する場合、半分を残し、採取してください。





手順④：採取したスワブに試薬を滴下する

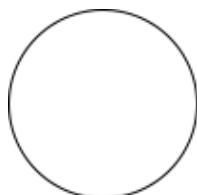
調整した試薬の上澄み部分を採取したスワブに2~3滴滴下します。



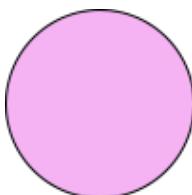
手順⑤：検査結果を判定

試薬が、薄褐色から鮮紫色に変化したら、陽性（精液が存在する可能性が高い）となります。

### 【結果の判定】



変化なし



薄紫色



赤紫色



紫色

陰性 = 精液はない

微陽性 = 精液の可能性あり

陽性 = 精液がある

#### ★微陽性・陽性だったら・・・

微陽性・陽性の結果が出たら、不貞行為の証拠として使用できる可能性があります。しかし、より客観的な証拠とするため、当社での検査をおすすめ致します。本キットと同様に精液の存在を確認するための「精液判定」、精液と一緒に付着している別の異性の存在を確認するための「DNA鑑定」いずれも検査可能です。まずはご相談ください。

DNA JAPAN 株式会社

<https://secure.dnajpn.com/>

● 浮気・不倫のDNA検査

<https://secure.dnajpn.com/dna-cheating/>

● 体液検査（精液検査）

<https://secure.dnajpn.com/body-fluid-test/>

● メールでのお問い合わせ

<https://secure.dnajpn.com/contact-test/>

#### 【使用上の注意】

本検査は前立腺酸性ホスファターゼを多量に含む精液に高感度で反応する検査試薬です。精液と反応すると鮮紫色に発色します。しかし、サルなど靈長類の精液、ヒト体液、植物及び嫌気性菌、腐敗菌などに含まれる酸性ホスファターゼにより類似の呈色反応を示すことがあります。本試薬が付着した検体を試料として血液型など他の目的に検体として使用することはできない。